

DIニュース

保存

NO.129

発行日

第二中央病院薬剤課



今月のトピック

骨粗鬆症治療剤で骨折が起こる!?

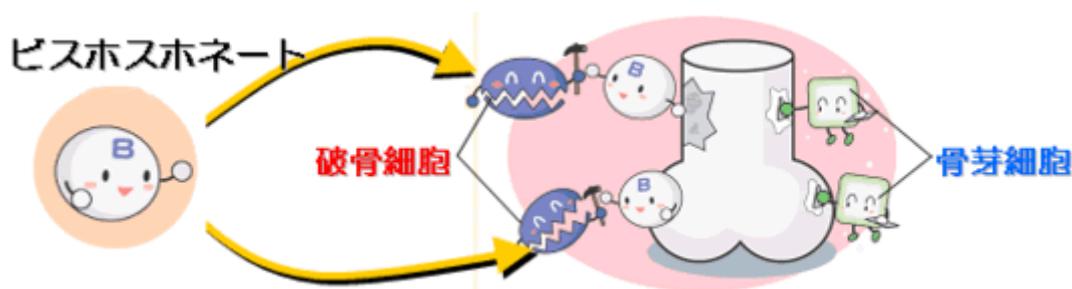
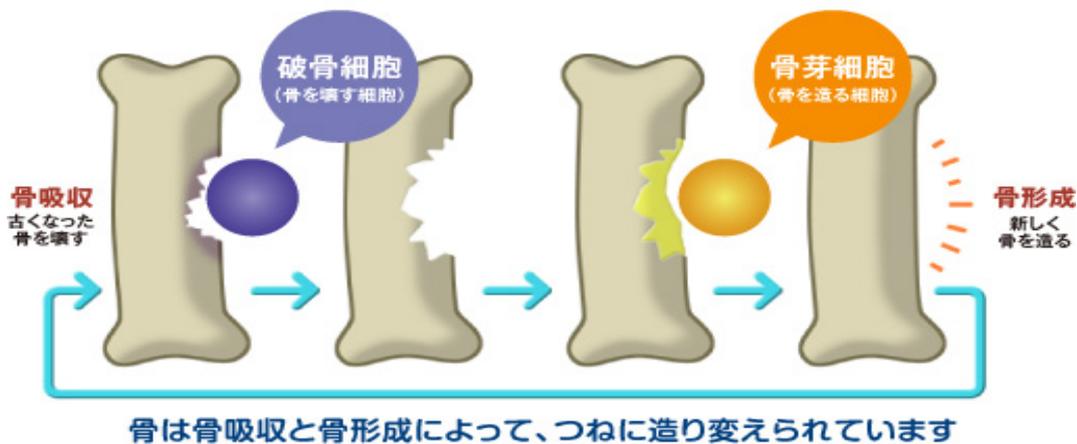
ビスホスホネート製剤（当院採用薬：ボナロン）は、内服において骨粗鬆症の治療及び予防に広く用いられています。その一方で、顎骨壊死や顎骨骨髓炎の副作用の他、最近ではビスホスホネート製剤(以下BP製剤)を長期使用している患者において、非外傷性的大腿骨転子及び近位大腿骨骨幹部のストレス骨折が発現したとの報告も上がってきています。骨折予防として用いられるはずのBP製剤が、骨壊死や骨折を引き起こす原因にもなる!?!今月のDIニュースのテーマは「BP製剤の矛盾」です。

①BP製剤はどんな構造式をしているの？

全てのBP製剤は-P-C-P-という基本骨格を持っていますが、この構造はヒトの体内では合成も分解も出来ません。添付文書上でも「代謝物は存在しない」と記載されています。BP製剤の消化管からの吸収率は1~2%と低くなっていますが、いったん骨に取り込まれると半減期は約10年と言われ排泄されにくい薬剤でもあります。BP製剤を長期間にわたって服用された場合、体内に蓄積し負担がかかる可能性があることは上記からも推測されるのです。

②BP製剤の作用機序は？

骨代謝の仕組み



回覧後、DIニュースのファイルに保管してください。

